

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	みかんを通じた交流サポートシステム「オレンジサポートシステム」
対象地域	静岡県浜松市北区三ヶ日地区
対象地域の概要	  ↑三ヶ日みかと浜名湖  ↑三ヶ日みかん
提案内容の概要	11～12月のみかん収穫期（みかん切り）に当地区を訪れる農業収穫作業員は5,000人規模だが、「オレンジサポートシステム」はこうした農繁期に必要な作業員を貴重な資源と捉え、農業収穫作業員の全国規模の交流サポートシステムを三ヶ日地区が中心となって構築する。あわせて農業収穫作業員の交流を土台にした地域間の新たな情報発信手法の構築を進め、農産物の地域間販売を促進していく。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	農業は必要な労働力の季節変動が大きな産業であり、かつては伝統的な周辺地域の農家同士による互助システムが機能していた。しかし、農家の全体的な高齢化、都市部における定期的なアルバイト先の充実などによりこうした労働力の提供システムが機能しなくなってきており、三ヶ日地区においてもみかんの収穫時期における農業収穫作業員の確保が難しくなっている。こうした問題は全国各地の過疎地において生じており、農産物等がありながら収穫できないという「販売機会ロス」が生まれてしまうこととなり、農家の経営そのものを脅かす恐れがある。 また、三ヶ日地区は、平成17年に旧三ヶ日町が浜松市と編入合併した結果、地域資源の発信力や地域性の弱体化が懸念されているところである。
(2) 活動内容の案	活動①：地元における検討会議の開催 内容：地元の商工会、観光協会等の団体・組織と連携して、本事業実施にあたっての検討会議を開催する。また、活動②③を通して得られたノウハウを共有することにより、次年度以降の活動に活用していく。 活動②：三ヶ日地区における現況調査および課題の整理、農業収穫作業員モニター調査の実施 内容：基礎調査として、地元の農家、交流施設などに対してアンケート、ヒアリング等を実施するとともに、空き家、不動産物件などハード面の現況調査により、三ヶ日地区における現状と課題の体系的な把握を行う。あわせて農業収穫作業員のモニター調査も実施しニーズの把握等を行う。

	活動③：交流サポートシステム連携地域の調査・研究
	内容：三ヶ日地区のように農繁期に農業収穫作業員が必要となる連携可能な他地域の現況調査（交流モデル地区の選定）を行う。
応募団体名	三ヶ日町農業協同組合・・・代表団体 株式会社ツーリズム・マーケティング研究所
リンク	http://www.ja-shizuoka.or.jp/mikkabi/
部局／担当者名	三ヶ日町農業協同組合 組合員相談課 縣 裕一
連絡先	053-525-1011
推薦市町村名	静岡県浜松市